

ヘタイム 下土狩 6:10 新穂高

深山荘前 15:30 (泊)

昨年の冬合宿A隊横尾尾根の結果は意外だった。当然登られると思っていた槍ヶ岳が時間切れで登られなかつたのだ。そんな訳で、三島労山初の冬期槍ヶ岳登頂の「栄誉」のチャンスは予想外に私達に回ってきた。そんな冗談を言ひながら私達は山田の車で東名を通り、小牧ジャンクションから中央道に入り多治見でおり、41号線を新穂高に向かい、深山荘対岸の多目的広場に幕営した。露天風呂に入り、スキーリングをたらふく食べて寝る。

槍山で明るい

12月30日 (小雪)

ヘタイム 起床 2:45 出発 5:
25-白出沢 10:00 槍平 11:20
(泊)

朝から小雪が舞っていた。近くの林道のトンネルの中でパッキン。車はそのままトンネルをガレージがわりに入れておいた。穂高平らで明るくなつた。「暖冬」で暑くて暑くて、ヤッケもオーバーアボンもぬいでしまう。白出沢で林道は終わり山道となる。ブドウ谷、チビ谷は雪崩の心配があつたが、それでもなさそう。滝谷出合

だ。雪が多いので難なく渡れた。天気は相変わらずで小雪が絶え間なく降り続く。下から登山者がやつて來た。その中の一人の青年は何と半ソデのTシャツ一枚であつた。氷河の内院を思わせる

広々とした槍平に着き、5月に幕営したすぐ上にBCを設ける。夕方青空が広がり、北の方向に明日登る中崎尾根上部が見えると思わず皆で「ウオー」と歓声を上げてしまつた。夜は時間もあり、酒を大いに飲み、久し振りに山の歌を唄いリラックスした。20時トイレに出た時はマイナス16度で星も光っていたが、24時頃0度に上がり突然激しい雪が降り始めた。

テントで語り合う

12月31日 (大雪)

3時頃起きたが外は激しい風雪だった。特に風が強く、山全体が咆哮している。7時に停滞と決定。雪はベタ雪で重く、1時間もするとテントがつぶれる。交替で外に出て除雪作業に精を出す。山田は雪かきは初めての体験のようである「冬山3年目でやっと冬山らしい冬山に来れた」と感激していた。ヒマなのでコンロの加圧バルブを分解して皮のパッキンを交換する。

外は相変わらずだった。まだ風がすごく、飛驒沢を上部から下部めがけ「ゴオーオー」駆け抜ける。

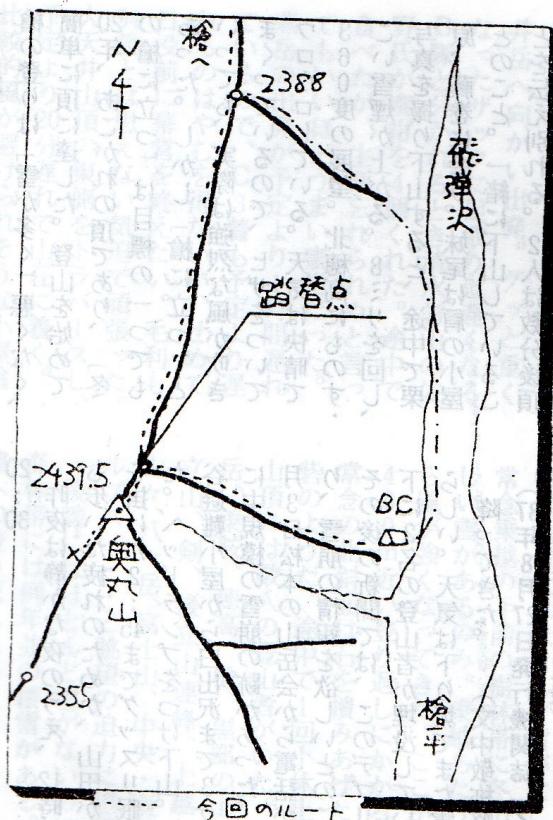
1月1日 (雪のち強風)

ヘタイム 起床 1:30 出発 3:30
—奥丸山 6:50 —中崎尾根分岐 7:00 —千分乗越 —肩の小屋 12:30 —頂

この調子では明日もダメかもしない。テントの中ではいろいろ話しあつた。人生、家庭、仕事、労働した山田、栗原が明日のルートの偵察に行く。天気は各地で大荒れで特に北陸、東北、北海道がひどかった。山岳でも遭難が多発しているようだ。

16時の天気図は明日ハッキリ良くなるとはいひ難かつたが、日程的にも出発と決め早めに寝た。

24時になつても嵐は一向に衰えず、絶望的な天氣だった。夜半には、冬ではめずらしくカミナリが頭上で3回程鳴つた。とにかく出発。トレースは2日間の雪で完全に消え、急登では早くも腹までのラッセルになる。尾根に出るまで非常に急だった。ラッセルは1人15分で交替。雪は相変わらず降り



道を間違える